

Vol. 126

2016.3.11

理事長トーク Top Interview

湘南藤沢記念病院の開院に向けて
～開設準備室長 松本先生との対談～

Vol. 2

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



前号の理事長トークでご報告した通り湘南藤沢記念病院の地鎮祭を終え、改めて、開設準備室長 松本 純夫先生と詳細を確認しました。

竹川理事長 松本先生のような独立行政法人国立病院機構 東京医療センターの院長（現 名誉院長）や慶應義塾大学関連病院会の会長（現 顧問）、内閣府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 新戦略推進専門調査会委員など、重要な役職を歴任されている素晴らしい方に、湘南藤沢記念病院の開設準備室長としてご活躍いただけることは、心強く思っております。

松本先生 ありがとうございます。今までの経験を大いに生かしていきたいと考えています。



竹川理事長 湘南藤沢記念病院への期待は、大きく3つあります。3つとは、(1) 藤沢市から期待されている地域救急医療への貢献、(2) 神奈川県から期待されている慢性期医療やリハビリテーションの実施、(3) この地区（遠藤地区）にお住いの皆様の生活の充実度を上げるITを駆使したサービスの実施、です。(1)については、西伊豆健育会病院や石川島記念病院で培ってきた2次救急の経験を、(2)については健育会グループで蓄積してきた高齢者の方の慢性期の医療やリハビリテーションのノウハウを生かしていきたいと考えています。そして(3)については、まさに松本先生のご専門ですね。

松本先生 はい。私は内閣府の医療・介護におけるITの活用についての委員も拝命しており、まさに今、議論を進めている最中です。そのキーワードは、「Hospital in the home (ホスピタル イン ザ ホーム)」です。高齢化、核家族化が進行し、独居世帯が社会問題化している中、在宅で家にいながらネットを介して病院とつながる見守りサービスが実現できれば、日本を元気にできると考えています。また、医療・介護機関がクラウド化し、医療と介護がシームレスに連携できるようになれば、患者さんにとって本当に必要なサービスを提供できるようになると思います。そのモデルケースを藤沢市で作り、全国へ発信できればと考えています。



医学博士 松本 純夫 (まつもと すみお) 先生



健育会グループ 湘南藤沢記念病院 開設準備室長
独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 名誉院長
高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 新戦略推進専門調査会委員
日本内視鏡外科学会監事
慶應義塾大学関連病院会 顧問

1973年 慶應義塾大学医学部卒業
1993年 藤田保健衛生大学医学部外科教授
2000年 藤田保健衛生大学第二教育病院・坂文種報徳会病院 病院長
2005年 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター病院長
2014年 独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 名誉院長
2014年 健育会グループ 湘南藤沢記念病院 開設準備室長

竹川理事長 藤沢市では、ライフケアガーデン湘南（以下、LCG湘南）が、10年前の2006年より既に介護事業を展開しています。このことも、大きな意味をもってきますね。



松本先生 もちろんです。このような事業を実現させるためには、湘南藤沢記念病院とLCG湘南が一体となって地域・自治体・慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス（以下、SFC）、そして企業との連携を深めることが不可欠です。加えてhospital oriented cohort（ホスピタル オリエンテッド コホート）研究、すなわち病院に来た患者さんを中心に健康・医療・介護の生涯データ情報を一元管理し、研究に活用出来る仕組みを作ることができれば、という夢を描いています。皆様ご存知のことと思いますが、「研究・教育に関する協定」を締結したSFCは、日本で初めてインターネットを本格的に教育に取り込んだキャンパスです。このノウハウを生かしてビッグデータを解析し、この藤沢市から日本のみならず世界の人々にとって有用な情報を発信していくことができるのではないかと考えています。



竹川理事長 湘南藤沢記念病院は、日本で初めての大学と密に連携する民間病院となります。そういう意味でも地域・自治体との連携はもちろんのこと、SFCとの連携を深め、医療の世界における産学官連携のパイオニアになっていけたらと考えています。

松本先生 まさにそのように思っています。湘南藤沢記念病院の特長の一つと言えらると思いますが、病院内にSFCと連携したヘルスサイエンスラボが併設され、また西洋医学と漢方の融合による未病・抗加齢センターも開設されます。神奈川県黒岩知事も政策の中で「未病を治して健康長寿」とおっしゃっていますが、健康寿命の延伸に向けた取り組みは、まさに産学官連携で実現できるものだと考えています。



竹川理事長 先日、建設予定地で執り行われた地鎮祭には、建設関連の関係者はもとより、藤沢市副市長、藤沢市議会議長、藤沢市医師会長や、慶應義塾からも国領常任理事をはじめたくさんの方が出席してくださり、また地鎮祭にもかかわらず地元紙である神奈川新聞やタウンニュース（藤沢版）に地鎮祭の様子が掲載され、湘南藤沢記念病院への期待の高さを感じました。



湘南藤沢記念病院が着工へ
17年秋完成目指し 地鎮祭

「湘南藤沢記念病院」の着工準備が整い、運営元の「医療法人社団 健育会（東京都千代田区・竹川節男理事長）は2月24日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに隣接する土地で地鎮祭を執り行った。

同会の竹川理事長をはじめ、慶應義塾の國領二郎常任理事、藤沢市医師会の鈴木伸一郎会長、行政職員など約100人が参加した。

地鎮祭では、竹川理事長が「健康と文化の森地区まちづくり」は自分たちが子どものころからあつた構想なので、こうして実現できることは感慨深い。新たな街づくりや、高齢化が進む市西北部の医療拠点としても期待される」と語った。

新病院は、2017年10月完成予定。5階建て（延床面積は約1万5千㎡）で、病床数は230床（うち30床は急性期）。二次救急に対応するほか、慢性期の療養や、回復期のリハビリテーションとして市内西北部エリアの医療を担う。未病センターや抗加齢センターなども設立する。慶応大と連携し、市西北部の新たな医療拠点を目指す。

不動産も3千円
乗らなくなったバイクを、円々買取。マイカー問わず無料出張買取。取付、動かし、取に伺い、廃車手続き、かかります。お気軽にご相談ください。電話を。ホンダ、0466

タウンニュース 藤沢版 3月4日号

松本先生 本当にそうですね。特に、藤沢市医師会長 鈴木紳一郎先生からの「医師会のメンバーも、湘南藤沢記念病院を応援していきたい。」という趣旨のお言葉は大変うれしく感じました。
「Hospital in the home」を実現するためには、地元医療・介護機関とのシームレスな連携が不可欠です。

竹川理事長 近隣に新しい病院ができるということで、地元医療・介護機関の皆様の中には不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。どんな些細なことでも不安を払拭して協力関係、信頼関係をしっかりと築き、共に地域住民の皆様のために尽くし成長していければと考えています。
地鎮祭を経て、いよいよ病院の建設が始まります。



松本先生 はい。ハードの部分は見えてきましたので、これからは、一緒に理想を実現してくれる医師、看護師、セラピストなどの人材を集めていくことが課題です。

竹川理事長 湘南藤沢記念病院では、世の中にはない新しいことへの挑戦が多く、様々な困難が起こる可能性があります。しかし、一つ一つの課題をきちんと解決していくことで、新しいタイプの理想の病院が実現できるのではないかと考えています。
湘南東部の地域の皆様、そして健康で長寿な社会づくりに貢献できる病院を実現できるよう、2017年秋の開院にむけ、その準備に松本先生と共に邁進していきたいと思っております。

